

## インターバンクの声（2014年7月25日）

欧州市場の朝方に発表されたドイツやユーロ圏の購買担当者景気指数（PMI）速報値が市場予想を上回り、ウクライナ情勢が特に悪化するような展開にもなっておらず、このところ続いていた欧州経済の先行きに対する懸念も若干緩和されたような昨日だった。

ニューヨーク市場に入ると、米新規失業保険申請件数が2006年2月以来となる低水準となり、安全資産買いの対象となって売られ難かった円も101円台後半に軟化した。米主要企業の決算発表の結果も引き続き良好だったことや中長期の利回りも上昇傾向となったことも円売りには追い風だったが、その後の米製造業 PMI や新築住宅販売が市場予想を下回ったことで更なるドル買いにはブレーキが掛かってしまった。ウクライナやパレスチナといった難題が残ったままではあるが、これだけ低水準となった失業保険申請件数を見せつけられると、どうしても来週の米雇用統計に期待をしてしまう。こうした安易な期待を戒めるように、複数のアナリストは今回の失業保険申請件数が年間の中でも一番ブレやすい時期の数字なので注意が必要だと警告している。それでも、来週は米連邦公開市場委員会の予定も入っており、さすがにボラティリティーも少しは上昇してくれるだろう。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。